

第6回京田辺市中学校昼食等検討委員会会議録

委員会名	第6回京田辺市中学校昼食等検討委員会
日時	平成30年1月31日（水）午後3時15分～午後4時20分
場所	京田辺市立社会福祉センター 3階 第1研修室
出席委員	1 学識経験者（同志社大学教授） 2 小学校に通う児童の保護者の代表（京田辺市立大住小学校PTA） 3 中学校に通う生徒の保護者代表（京田辺市大住中学校PTA） 4 中学校に通う生徒の保護者代表（京田辺市立培良中学校PTA） 5 栄養教諭代表（京田辺市立薪小学校栄養教諭） 6 公募により選出された委員 7 公募により選出された委員 8 その他教育委員会が適当と認める者
欠席委員	9 小中学校校長会代表（京田辺市立草内小学校） 10 小中学校教頭会代表（京田辺市立培良中学校教頭） 11 中学校に通う生徒の保護者代表（京田辺市立田辺中学校PTA） 12 中学校教諭代表（京田辺市立田辺中学校教諭） 13 中学校教諭代表（京田辺市立大住中学校教諭） 14 中学校教諭代表（京田辺市立培良中学校教諭） 15 京田辺市教育委員会教育部長
事務局	前川宗範教育部副部長・佐路清隆学校環境整備課長 小畑裕子学校環境整備課保健給食係長・吉岡一成学校環境整備課主事
内容	1 視察を終えて感想 2 京田辺市中学校昼食のあり方について
傍聴者	7名

1 開会

事務局	・皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただ今より第6回京田辺市中学校昼食等検討委員会を開催いたします。開会に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。 先日、郵送で送付させていただきましたが、配布後、少し、補足を加えましたので、お手元に新しい資料一式を置かせていただきました。ご確認をお願いします。 それでは、第6回京田辺市中学校昼食等検討委員会を開催いたします。 次第に従い、進めさせていただきます。 まず、最初に真山委員長よりご挨拶いただきます
-----	---

2 委員長挨拶

委員長	・皆さん、ご苦労様です。今日は午前中から長い時間にわたりありがとうございます。 八幡市の教育委員会と中学校のご協力によりまして、無事視察も終わり、中学校給食を実施した場合の実情や課題を含め色々な事がわかって議論に臨めるかなと思います。 今日は第6回でございまして、今日の視察に加えて、これまでの議論も踏まえまして、委員会としてある一定の方向性を決めて行ければと思います。 では、今日の議事をお願いします。
-----	--

3 議事

事務局	・本日の検討委員会は、視察を終えての感想と次回の検討委員会におきまして提言案ということでこれまでの検討結果をまとめとさせていただきたいと思っています。 それに向けまして、これまでの検討結果をまとめを議題にさせていただくにあたり、京田辺市中学校昼食のありかたについて、検討内容を整理させていただきたいと思っています。よろしくご審議のほどよろしくお願いいたします。 それでは、議事の進行は、委員長が行うことになっておりますので、進行を真山委員長をお願いします。真山委員長 よろしくをお願いします。
委員長	・最初に八幡市の視察を終えてということですので、最初に私の感想を申しますと、去年の5月からでまだ何年もたっていないのですが、非常にスムーズに行われていたと思います。 色々お話聞いていて、問題や出来事に対してそれぞれ巧く対応できたと言われていたので、給食を導入することはそれ程難しくないのかと思いました。

	一方で、八幡市の場合は、小学校施設に余裕があるということで、親子方式で中学校給食が低い経費で非常に好条件で可能となっていました。その点は、京田辺市とは事情が違うというのが私の印象・感想です。 委員 ・みなさんお疲れ様です。子ども達の実際の意見を聞くことができて非常によかったと思うのですが、私なりにまとめました。 二年生の子どもの意見で、量の加減が難しいといっていました。女子にはちょうどよい量だといっていました。クラスによっては男子のほうがおかわりをたくさんしていたり、女子で量を減らしている子がほとんどのクラスもありました。担任の先生も給食になってあたたかいご飯が食べられてよかったと言っていました。 三年生は様子が落ち着いていました。うどんにご飯がつくことがあり、量がきついと言っている子もいました。 給食がいいかお弁当がいいか聞いたら、お弁当がよいといった子は、自分の好きなものを食べられて当たり外れがないといっていました。牛乳が給食にはつくので毎日飲み物に困らないとも言っていました。現地で子ども達の意見を聴くことができたのでいい機会をいただき感謝しています。ありがとうございました。 委員長 ・子ども達の声も聴いていただきありがとうございます。給食の量も見たいにはわからなかったのですが、少なくないですね。 委員 ・全体的に教育委員会も校長先生、中学校の先生、子どもたち、みんな不安だったけど、給食になってよかったことの方が多いい言っておられました。 もっと時間もかかると思っていたが、みんなで行動して、準備して、運んでみんな同じものを食べるメリットなどをおっしゃっていましたし、いいなと思ったのは不登校の子が給食の時間の前には来るようになったと言われていて、今までもそう言うようなことは聴いたことがあったけど、ここでも同じ事が起きているのだなと思いましたし、数ヶ月でここまで子ども達が楽しくやっているのはいいと思ったし、1食280円でここまでしっかり食べられるというのを知れたし、京田辺でもやっていったらいいなと思いますね。 委員 ・実際に見せてもらい、一体感があっていいなと思いました。 先生に、大変ですかと聴いたとき、声かけが多くなりましたが、嫌なことはないと言っていました。実際にやってみたら良いものなのだなという感じはしました。 委員長 ・そんなところでよろしいでしょうか？ ・皆さんの感想はだいたい共通しているのかなと感じますが、仮に京田辺でも中学校給食を始めた場合、学校現場で対応が不可能になるということは、八幡の例を見る限り、それはないだろうと確認できたと思います。
--	---

事務局	・それに至るまでの事情は先ほど言ったように違いますが、可能性についてひとつの情報が得られたと思います。後での議論についても今日の視察を反映させながらご意見いただければと思います。 ・さて次の議題としまして、中学校昼食のあり方について、これまでの議論をもう一度整理した上で、本委員会としてどういう方向性に向かっていくのかということを議論したいと思います。 事務局の方で、これまでの議論をまとめた資料を用意していただいていますのでまずその説明をお願いいたします ・まず資料1をご覧ください。現在の中学校昼食についてアンケート結果からいろいろご意見を頂戴しました。家庭からの弁当については、思春期の子どもと家庭を繋ぐコミュニケーションツールとして大きな役割と意義を認められる。家庭弁当に対する子どもが持つ感謝の気持ちや、保護者が子どもの健康や成長を考え作っている思いは、アンケート結果から多く読み取ることができた。 ・一方で、子どもの健康や成長を考える中で、栄養バランスや豊富なメニューという視点で家庭弁当における限界を感じる他、夏場の衛生管理、共働き世帯やひとり親世帯の増加による社会環境の変化、また、子どもの好みに合わせる食材等の偏り等、家庭弁当で十分に栄養が摂取できているかなど、すべての子ども達にとって、何が本当に望ましい昼食になっているか考えなければならない。 また、ごく少数ではあるが、昼食を持ってきていない子どもや、少量のパンしか持って来ていない子どもがいることも確認でき、中学生にとって大切なことはなにか、どのような昼食がふさわしいのか考えていくことが重要である。 ・デリバリー方式選択式注文弁当のアンケート結果からは、多くの子ども、保護者は昼食を選択できる現在の方式に満足しているが、家庭弁当、市販の昼食、デリ弁当という選択肢の中、大半が家庭弁当を選択している。 少数であるがデリ弁当を利用している子どもはいる。また、ごく少数ではあるがほぼ毎日利用している子どももあり、デリ弁当が家庭弁当を持参できない時の昼食として、役割を果たしている。 しかし、急に弁当が用意できない時の対応として行っているデリ弁当であるが、子どもが市販の昼食（パン、おにぎり、弁当）を容易に準備できる現状では、デリ弁当のニーズは低い。 利用率の高い、低いだけの評価ではなく、継続して利用している子どもがいる以上、事業の意義はある。デリ弁当を利用した感想では、「味、ごはんの量、おかずの量」とともに利用者のほぼ半数が「よい」と回答しているものの、利用率が上がらない。その理由として、デリ弁当に課題があるのではなく、家庭弁当を支持する子ど
-----	---

も多いことによるデリ弁当の必要性の低さ、配膳室に取りにいく、昼食時間が短い、友達が利用しない、予約が面倒、予約方法がわからない等、デリ弁当の状況が利用を阻んでいることがわかる。

・また、子ども、保護者より「デリ弁当を食べる日を設ける」という意見が多くあった。利用しない理由の中で、「友達が利用しないから」と多くの回答があった点について、思春期特有の「人と違うことを嫌う」傾向が読み取れる。

市内の中学生で、市販の昼食を持参及び昼食を持って来ない子どもの数は、少数ではあったが、存在はしている。

・次に、これからの中学校昼食についてというアンケート結果からは、「家庭からの弁当」を望む子どもが多く、その理由は自分の好きな物が食べられるや、弁当が美味しいから、自分にあった量が食べられる、家族が作った弁当は安心できるが多かった。

また、中学校生活が忙しい中、手軽に食することができる家庭弁当の利便性、家族への感謝の気持ち＝ありがたみが実感できるツールとなっていることも家庭弁当を子ども達が指示する一因だと感じた。

・「小学校のような給食」では、給食を肯定する意見（温かい、栄養バランスが良い）だけでなく、給食を実施することで家庭弁当を作る人の負担が減ることに意見が集まったことも、現在の社会情勢の中におかれている様々な家庭のあり方が垣間見られた。

・「どの昼食でもよい」という回答の中にも、どの昼食に置いてもメリット、デメリットがあることを知り、それぞれの家の事情に合った昼食をそれぞれが選択できることをよしとする、相手やまわりに気遣う中学生ならではの回答だと思う。

・保護者は、ほぼ8割が「小学校のような給食」を望んでいる。その理由として、栄養のバランス、温かい物、冷たい物が食べられることに意見が多数集まった。ほぼ毎日、弁当を持たせている家庭が9割を超えるアンケート結果の中、保護者の子どもへの思いが大きいことがわかる反面、1日3食を家庭で準備する毎日に、栄養のバランスが十分かどうかの不安が、弁当作りへの負担につながっているように思う。

・どの昼食においても、メリット、デメリットがあり、また子どもの思い、保護者の思いも様々である。共働き世帯の増加、核家族化、ひとり親家庭の増加などの社会環境の変化の中、子ども達が置かれている状況も様々になってきている現実がある。

家庭弁当には、保護者が子どもを思い、考え、作り、それを子どもが食べることでコミュニケーションツールになり、家族との絆を深めるものとなっている。

給食は、温かい（冷たい）食事が摂れることは大きな利点であるし、弁当では限りのある多種多様な食材を提供できることで、栄養のバランスもよく、また食を通じて様々な発信や、食文化の伝承などの食育にも寄与するものとなる。

「子どもたちにとって」何が1番よい昼食なのか。それぞれの昼食にある、それぞれの良さ、それぞれの課題に、どれが「1番」と言い切れないところがある。といったご意見をいただきました。

- ・続いて、資料2に様々な方式についてまとめさせていただきました

- ・現行方式につきましては、家庭弁当については子ども達の満足度の高さ、持参率が98%を超える高い水準であるとともに、家庭とのつながりがあり、家庭による食育に高い評価を得ました。また、現行のデリ弁につきましてもそれぞれ意義はあると感じております。しかし、その中で少数派ではありますが昼食を持参していない子どもや、少しのパンだけを持参する子どもなど、家庭状況が異なることによる昼食の差があることも確認できました。

- ・デリ弁当の検証についても、デリ弁当に課題があるのではなく、中学生と取り巻く環境など様々な状況により利用が拒まれ、方式は肯定されているが、利用についてのニーズがということがありました。

- ・続いて、給食について、様々な方式別にそれぞれの項目を比較いたしました。

- ・中学校給食を実施する場合、方式別にメリット・デメリットを様々な項目において比較したところ、それぞれの方式別に一長一短がありました。

本市においては、生徒数増加などが原因による実現が困難な方式があることを感じました。

- ・給食実施方式の中で、食缶方式か弁当箱方式の比較については、食缶方式は、適時適温による提供及び汁物の提供が可能である。弁当箱方式については、配膳の手間は省けるが、量の調節が困難であるとともに、配送の際、病原菌の繁殖を防ぐため、10℃以下で配送する必要がある。温めて提供する場合、中学校内で設備と手間が必要となる。

- ・また、方式別にそれぞれの課題があり、自校方式においては、ドライ方式の給食調理施設を中学校敷地内に建設することが課題であり、親子調理方式であれば、市内の小学校、中学校の現状では「親校」「子校」の実現可能な組み合わせ、親校の給

食室の増改修に課題があります。センター調理方式においては、学校外に給食調理施設を建設するための用地（工専地域等）の確保・新たな施設の建設に課題があります。デリバリー方式においては、給食施設を建設しない分、市外の民間調理業者の施設を活用しての調理になり、学校給食衛生管理基準に適合する調理施設を保有し、中学校昼食を調理及び配送する業者の確保が課題になります。

以上のようにそれぞれの方式によって課題があることがわかりました。

・次に経費による比較を行いました、「経費」の差で給食の実施方式を検討するのではなく、あくまでも確認する程度とし、本市の場合、どの方式を採用しても、初期経費、維持管理費とも多額の経費が必要となることを確認できました。

・またその他の項目として、教育扶助及び就学援助については、現行方式では対象外、給食を実施した場合は、対象として援助することができます。

これからの中学校昼食のありかたについてでは、現行方式についてのメリットは、

- ・家庭弁当に対する子どもの満足度が高い
- ・家族に感謝の気持ちが芽生える
- ・選択できる昼食に満足度が高い（家庭弁当、市販の昼食、デリ弁）
- ・学校運営、学校環境への影響が少ない
- ・アレルギー対応がし易い
- ・デリ弁当は緊急時に対応できる
- ・家族とのつながりを深めることや、成長過程において個人差が最も大きい中学生に対し、量や内容にきめ細かく対応できる

デメリットとしては、

- ・学校給食法による給食の基準を満たしていない
- ・栄養の偏り（子どもの好みに合わせることによる偏り、家庭ごとの栄養バランスの差）
- ・適温提供（保温・保冷）が難しい
- ・デリ弁当の利用の不便さ、みんなが利用しない状況により利用しづらい
- ・教育扶助及び就学援助の対象とならない
- ・夏場の食中毒の対策や、食中毒を防ぐための食材選びの制約
- ・小児化や核家族化などにより、家族や家庭を取り巻く環境が著しく変化し、中学生の食についても、多くの問題を抱える状況となっていることの対策ができづらいなどが挙げられる。

給食実施によるメリットは、

- ・学校給食法により給食実施に努めることが定められている
- ・食習慣の形成と栄養バランスに配慮した食事をとることが可能

	・「生きた教材」として、食育が可能 ・適温提供（保温・保冷）が可能 ・教育扶助及び就学援助の対象となり、家庭の経済的困窮対策となる デメリットな部分としては ・学校運営、学校環境への影響がある ・費用がかかる（初期投資費及び維持管理費） ・食物アレルギー対応が必要 ということがあります。 中学校給食にした課題としては ・増加傾向にある生徒数 ・中学校における給食関連施設の建築及び整備 ・財源の確保 ・老朽化している小学校給食室の大規模改修 などを併せて検討する必要があるなどのご意見をいただきました。
委員長	・ありがとうございました。アンケートの結果、いろんな方式別の検討結果、そういうものを踏まえまして、全体として現行の弁当方式と給食にした場合のメリット・デメリット、今まで出てきた議論や情報を整理していただいたわけですね。 ・なお、この委員会としては具体的にいつまでに給食を実施しその場合は何方式をするということを決める委員会ではありません。 あくまで方向性を決めればよい委員会なのですが、あまりに現実を踏まえない無責任なことはいえませんので、議論を重ねてきたわけですね。 さて、どういう方向性でいけばよいか率直なご意見をお願いします。
委員	・最後の資料3で大きく今までやってきたことをまとめてくださっていただいて、給食実施のメリット・デメリットの中、給食実施のメリットで、学校給食法や栄養のバランスとか食育のこととか温かくいただけることとか、生活困難なことへの配慮とかを解消できるとあり、デメリットに学校運営とか学校環境とか費用がかかるとか食物アレルギー対応とか書いていますが、今日八幡に行って、この学校の運営や環境に影響がありますし、費用も建設にかかるとか実際にお話していただきましたが思うほどのことはなかったとお伺いしました。また、食物アレルギーについても対応できていましたし、デメリットの項目は工夫次第で解消していくなという気がして今日見に行って本当によかったなと思いました。 ・先ほどにも出ていたみんなで一緒に準備したりいただいたり片付けたりというつながりができると、落ち着いて先生も給食食べられるとかここにはないメリットがたくさん出ていたので、やっぱり給食は本当に必要だなと思いました。

	・これから新しいことをするとなると不安なことはありますが、やったら新しい道が開けていくのだと思いました。 ・中学校の校長先生が実現するには反対の思いが多い中学校の先生にまず小学校の給食現場を見てもらうことからはじめるといいですよとアドバイスもいただいたので今日中学校の先生は誰も出席されていないのですが、今後そういうことも考えていただき、京田辺でもその方向性が持てるなと本当に今日思いました。
委員長	・確かに、デメリットと書いていますが、課題とも解釈できますので、乗り越えられなくはない工夫次第では解決していけることだろうかと思います。 今基本的な方向としては実施を検討した方がよいという意見かと思いますが他の皆さんいかがでしょうか？
委員	・おっしゃるとおり、中学生の昼食を検討する意味だけで見たら本当に給食は素晴らしいものだなと思います。中学生だしもう大人だしちょっと手を離している感覚が私の中でもあり、食べる、食べないも自分の意思じゃないのかなと思っていたのですが、やはりご飯が出てきたらみんな食べるのだなと思いました。苦手とか量多いとか少ないとか言いながらみんな食べるのだなとすごく思いました。 小学校の時に食べていた同じ釜でできた同じ味を6年間だったのを9年間食べさせてやりたいなと今日は本当につくづく思いました。実施にむけて動きたいなと私は思いました。
委員長	・ありがとうございました。他の方はどうですか？
委員	・年末の新聞にも全国で中学校給食が86%実施していて流れ的にはというか、それを見たときから乗り遅れているなと思っていました。 先ほどの視察で八幡市は、就学援助を受けておられる家庭がすごく多いと聞き、ここで話している内容は栄養面での話で、あまり援助の話は出てきていなかったが、もっと切実な方がいるっていうのを感じました。 そっちの意味での声があがっているわけでは京田辺市はないのだろうと思いますが、先ほどの全国的な流れと、給食にするべきかどうかという話し合いがこれで2回目ですが、してほしいという希望を持っている方は実は多いのだろうと思います。 現実的には土地の問題とかあると思いますが、この流れにはのったほうがいいのかなと思います。個人的には学校行きが近い子がいるのですが、給食あるから行ける日もあるけど、親としては給食食べない子どもをかかえている。いろいろ私の中であって、家庭数としては少ないですが、我が子だけお弁当というのはメンタル面ではきついです。

委員長	・お弁当はお弁当で、給食は給食で、それが負担になるお子さんはいるという現実があるので、当然配慮は必要になりますね。 - お話を今聞いている限り、給食を実施することについては、その方向性が望ましいという雰囲気かなと思いますが、反対意見はございませんか？ - 私も最初は、子ども達のアンケートを見る限りでは、子ども達はお弁当を望んでいると思いましたので、子どもの立場から考えれば無理に給食にする必要ないのかなと思ったり、保護者の方もお弁当を持たせることでコミュニケーションもとれるというお弁当のメリットにあたるご意見も多かったので、給食がベストなのかと疑問を持ったりもしましたが、給食をすることによって生まれる様々なメリットを考えると、どちらかにしないといけないとなった場合、基本として給食をすることが望ましいというのが委員会の考えとしてよろしいでしょうか？ - その前提で、どんな給食にするのかということも、少しは提言しないといけないのではないかと思うのですが。 ・たとえば京都市のように、給食という名目で実際にはお弁当を注文しているという形態もないわけではありません。 ・しかし、今、議論しているようなメリットを生かすとすれば、いわゆる普通の給食が望ましいのかなと思います。普通の給食というのは自校で調理するか、センターから持ってくるかはいろいろありますが、今日の例のように食缶にいれて温かいものは温かいまま、冷たいものは冷たいままという形で配膳できるような給食というのを想定して、給食が望ましいというのでよろしいでしょうか？ ・他の形がいいというのであれば、また検討したいと思いますが、方向性としてはこれでよろしいでしょうか？基本的なことはみえてきたかなと思います。 ・今まで本委員会としては、給食は給食でいいところがあるが、お弁当も捨てがたいということでしたが、今日の視察を含めて、お弁当の良さは認めるものの給食にはそれを勝る良い部分もあり、全国的な流れとか法律の動きとかを踏まえると京田辺市も給食を実施することが望ましいのではないかと、その場合は食缶方式の給食を実施することでメリットを最大限引き出せるようになるだろうということですね。 ・一方でこれまでも出てきたように、どこで調理するのか、どうゆう方向で実現していくのかという点については資料などをみるかぎりなかなか簡単には決められないという状況だと思います。
-----	---

	・今日の八幡市の例を聞いていまして、導入するという方向性が決まれば、実際にどういう形で導入するかというかなり具体的なことを検討する委員会を別途作って、そこで色々検討されていたようですので、おそらく京田辺市でもこの委員会の方向性としては実施にむけた方が望ましいといってもそれを実施するための技術的な部分や、土地のこと費用のことなどは、ここでこれ以上具体的なことを話すよりその分野の専門家を交えて別途検討会を設けて検討されることが望ましいということになりますね。 ・八幡市の例でいうと、親子方式にすると建築用途規制の問題があったように、想定外の問題が実際には色々出てきますので、専門的な検討をしないといけないし、当然相当な費用がかかりますので、できるだけ市民への負担が軽くなるようにという検討もしないといけないと指摘したいと思います。 あと、中学校の給食には直接関係ないですが、小学校の給食室の老朽化や認定こども園を実施した場合の給食の需要が増えることなどへの対応をしていくという、中学校給食以外にも給食に関する課題が京田辺市は実際に出てきていますので、これらについても併せて検討し、無駄のないよう効率的な方法を考えてほしいというのが指摘点になると思います。 他に何か、委員会として京田辺市に言っておきたいことがあればおきかせいただきたいと思います。
委員	・給食の方向性としてはそれでいいと思うのですが、給食を実施することで家庭での食育の役割が、全部学校に移るわけではないということをしっかりと押さえておかないといけないと思います。今日の校長先生のお話でも、トレイの中でも食器の並べ方であったり、食事をとれないなど、なぜとれないのだといえば家庭での役割がクローズアップされるわけですよね。そういうところはきちんと押さえておかないと、すべてを学校に丸投げされたり、行政に役割がまわってくるということであれば、それはちょっと違うなということになりますし、学校もそこまでは大変だと思います。そのへんもご理解いただけた上でというふうに思います。
委員長	・そうですね。給食を実施することで家庭の責任や役割がなくなってしまうわけではなく、むしろ朝食や夕食でよりいっそう家庭の良さをを出してもらいたいというようなことを含めて、家庭と学校で食育や人間形成をやっていくという事も何らかの形で言及して行けたらと思います。 当然導入するということになったときに、1番反対があるのは中学校の先生だという話が出ていましたが、それもやってみたらそうでもないのだということでした。しかし、まだやっていないので当然、不安があると思いますので、理解を得るためのいろんな準備を経て小学校を視察などして、協力を得られるようにすること

委員	も重要なことだと思います。 ・他に何か、給食についての考え方についてありますか？ ・前の検討委員会で、中学校の配置図や経費の比較などをいただきましたが、今日八幡市のお話を聞かせてもらい、八幡は小学校が大きくて、過去児童数が多かったが現在児童数が減ったので給食室を広げていく余裕があり、中学校の分も作れるという親子方式をするのに条件が良かったというのはよくわかりました。 京田辺市はそこにあてはまる学校もあれば、田辺中のように生徒数がまだまだ増えていくという学校もあるのでひとつでいけない状況だと思います。 私自身は小学校と同じように、自校調理方式がいいな、理想だと思っています。そういうことが可能なのかわかりませんが、理想としては自校調理方式がいいなと方向性も考えられないのかなと思っています。
委員長	・たしかにすべての中学校で同じ調理方式をしないといけないということではないので、選択肢としてはあると思います。ただ試算はきちんとできているわけではないので、敷地を拡大しないといけないとか、都市計画法上の用途制限がどうなっているのかということも考えると、自校方式でいきましょうといわれても物理的に無理ということもありますので、そのへんは次の具体的な実施方法にむけての検討委員会で検討してもらうことになるかと思っています。 ・まあ確かに、温かいとか冷たいとか、調理のにおい、雰囲気、空気を感ずるといふ点では、自校方式が一番望ましいと個人的には思います。そういう点では自校方式ができればそれに越したことはないと思うのですが、残念ながら京田辺市はそれができる条件があまり整っていないというのが現状ですので、そこは色々な事を総合的に検討していただかないといけないと思います。 自校方式が望ましいという意見があったということを報告書に残せますので、ぜひ記録に残したいと思います。 基本的な方向性だいたいみえてきたのですが、事務局の立場から議論について見落としているところがあるのではないかと、ご指摘や疑問点などがあればぜひご発言ください。いかがでしょうか？
事務局	・今回の委員会につきましては、中学校昼食のあり方についてお願いしていますので、一定の方向性は検討していただいたと思います。いろいろなご意見をお伺いする中で実際実施するにあたっては、まだまだすりあわせていかないといけない課題がたくさんあります。この委員会で検討いただいた中学生昼食のあり方についてのご意見を参考に次の委員会でしっかりと検討していかなければいけないと思います。

事務局	・また、デリバリー弁当の給食というのが今回も話題に挙がったとおもいますが、それについても給食法が改正される前に京都市などは給食としてデリ弁をされていたので、そのまま発注率が30%であっても給食として取り扱われていますが、後発の町ではそれが給食としては認められないという現実がありますので、この委員会では選択肢としては外させていただきました。 八幡市さんからのお話でも富田林さんがされている給食は非常によかったというお話がありましたが、本委員会ではデリバリー弁当給食に関しての検討は最初から外してしまったのは、足らなかったかなと思っております。 ・そういう意味では、デリバリー方式で特に注文率が低い場合ですと、今から始める給食に該当しなくなっているということですよね。給食を実施するがほうがいいのかということを使う場合ですと、必然的に今の制度しくみからするとデリバリー方式は外れてくると考えていいと思います。
委員長	・もう一点、仮に給食を実施するという方向性がここで出て、実際に市の方でも議会でも実施すると決まっても、来年からできるというわけではなく、一定の時間がかかりますので、そこにいくまでの間、お弁当持ってこられない子どもについては、いわゆるデリ弁などの対応を継続していくなどの十分な配慮が必要と言わないと行けないと思います。 ・今の業者がこのまま少ない注文数で請け負ってくれるかもわかりませんので、本委員会から一言触れておく必要があるかなと思います。 ・他に何かお伺いしないといけないことはございますか？
委員長	・ではあとで、今後のスケジュールについてお話があるとは思いますが、今日だいたいの方向性がみえてきましたので、それに基づいてということになります。 この提言について、これでよいかということを議論していただくということになります。それで大きな異論が出なければ文言修正をしてまとめていくことが可能かと思います。まとめるにあたっては、基本としては給食を実施することが望ましい、その場合の給食というのはデリバリーなどを含めても食缶方式がいいだろうと、ただしどこで調理するか、どういう形で提供するかについては、京田辺市の実情、実態を踏まえて、もっとも合理的で、実現可能な方式で、別途教育委員会や市の方で十分に検討していただく必要があるということをお願いする形になるかと思っています。 その際は老朽化している小学校の給食室や認定こども園の給食について等併せて検討し、できるだけ全体的なコストが削減できるような方法を検討していただきたいとします。

	・中学校だけで完結するというだけでは、今の財政状況をみると給食の実現自体が不可能になりかねないので総合的に検討することが必要だろうということです。それに加えて、仮に給食を実施したからといって、これで食育や、食に関する様々な人間形成に関わる部分をすべて学校に任せるということでなく、家庭での食育や食事に関する礼儀作法などを含めた家庭の役割も必要であるし、現場の先生方の負担・不安があるのも事実ですのでそのあたりを払拭する事前取り組みが必要であるというあたりを組み込めばまとめられるのではないのでしょうか、いかがでしょうか？ ・では、以上のような趣旨を文言化して提言の案を作らせていただきます。それは主として事務局にお願いするのですが、私も一定のお手伝い、関与をさせていただきます。案ができましたらばどうするかという今後のスケジュールを説明していただけますか。 ・提言案を作成させていただきまして、本年度中にもう一度第7回の会議を3月頃開催したいと思っております。 事前に皆様に提言案をお配りして、最終的に漏れているところ、書き足した方がいいところのご意見をいただき、修正してまとめて作らせていただきたいと思います。そのあと、事務局の責任で校正させていただき、それをもって提言という形で市長ならびに教育長に報告をさせていただきたいと思っております。スケジュールとしては以上です。 ・では、委員会は3月中には次の委員会を開いて提言案の確認をするということですね。個人的な希望ですが、提言の中で学校給食を実施するのが望ましいというのはいいのですが、その主たる根拠に学校給食法の改正というのはもってこないでほしいと思うのですよね。国に言われたからやるというのは何かしゃくに障るというか、違和感があります。あくまでも、京田辺市として給食を実施するのだというのが基本で、たまたま学校給食法も言っているというスタンスでまとめていただけたらと思います。これは半分冗談、半分本気です。 国から言われてやるのであれば、こんな検討委員会ではなく、「はい、やります」でいいわけで、せっかく皆さんで検討していただいたのは、何が京田辺の中学生に一番いいかを考えて、これにするのだと決めていただいたのです。それがたまたま学校給食法の要請している給食の実施という流れにもちゃんと合っていますというのが、そんな論理が地方分権の時代には美しいなと思いますので、ぜひお願いいたします。 ・第8回の検討委員会もあるのでしょうか？
--	--

委員長	・次回、異論がでて再検討になれば別ですが、議論によっては第8回はなしという理解でお願いいたします。 ・今日は学校の先生方の検討委員がいらっしゃっていないので、このような結果だと怒られるかもしれませんが、実際に新たな負担が大なり小なりおこるかとは思いますが、充分なご理解していただけるように努力をしないといけないと思います。 ・では、皆さまのご協力によりまして、無事にこの委員会としての方向性、提言のとりまとめができそうな形になりました。長期間にわたりご協力をいただきありがとうございます。もう1回検討会議がございますので、最後提言の内容についても一度ご検討いただきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。それでは事務局お願いします。
事務局	・ありがとうございました。本日中学校の先生、小学校の先生につきまして、日程調整をさせていただいたのですが、八幡市さんとも調整する中、水曜日というのは職員会議が入っておりまして、どうしても離れられないということで、学校の先生を除く委員さんばかりということになり、お詫びいたします。申し訳ございませんでした。 ・本日は早朝から八幡市の見学、そして本会議まで熱心にご協力いただきましてどうもありがとうございました。 以上をもちまして、第6回中学校昼食についての検討委員会を終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

午後4時20分終了